



# 科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)  
<https://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

## 天文シリーズ

“自分の星”は持てるの？

### 星に名前をつけるには？

How to attach a name to stars?

姫路科学館 学芸・普及担当 安田岳志

サン＝テグジュペリの小説「星の王子さま」では、王子様をはじめ自分の星を持っている人が登場します。もし自分の星があっても、現実的にはそこまで行くのは難しいので、せめて、自分の名前をつけた星を持つことはできるのでしょうか？

#### ■天体の名前は誰がつけるのか？

天体の名前は、世界中の天文学者が集まって組織した国際天文学連合 (International Astronomical Union・以下 IAU) が管理をしています。様々なルールの下で IAU がつけた名前は、世界中の天文台や研究者の間で使われる公式な名前となります。みなさんが図鑑や教科書で見る天体の名前も、IAU が決めた名前を翻訳したりカタカナに直したりしたものが使われています。

#### ■彗星に名前がつけられる！

時折夜空で長く尾を引く姿を現す彗星<sup>すいせい</sup> (ほうき星) は、発見した人の名前が発見順に 3 名 (最近では 2 名が推奨されています) までつきます。彗星は直径数 km のチリを含んだ氷の塊です。太陽から遠くにある時は暗くほとんど見えませんが、太陽の近くにやってくると温められてチリやガスを吹きだし、次第に見えるようになります。夜空のどこから来るのか分からない彗星を根気強く探して、これまで見つかった彗星と同じものでないか調べて、新発見だと分かると名前がつけます。

かつては日本では盛んに彗星が発見されていて、1965 年に静岡県池谷薫氏と高知県の関勉氏が発見した「池谷・関彗星」や、1995 年に鹿児島県の百武裕司氏が発見した「百武彗星」のように、日本人の名前がついた彗星がたくさんあります。また、赤外線宇宙を調べる人工衛星「IRAS (アイラス)」の写真に新しい彗星が写り、その後、地上からの発見

が加わって「IRAS・荒木・オルコック彗星」という名前がついたものもあります。

### ■小惑星にも名前がつけられる！

小惑星は、主に火星と木星の間で太陽の周りを数年かけて公転しています。小惑星を発見するには時間差をつけて夜空の写真を撮って、恒星の間を動いている天体を探します。さらに、何年か追跡して太陽の周りを回る軌道を決めて、これまで見つかった小惑星と違うことが分かれば命名権が与えられます。いくつか制限がありますが発見者は好きな名前を提案できて、IAU が承認すると命名されます。

彗星同様、日本で数多くの小惑星が発見されていた時期があつて、日本の地名や人物にちなんだ名前がたくさんつけられています。姫路にゆかりのある名前では、「姫路」（小惑星番号 29199）や「白鷺城」（同 29337）、姫路出身で国立天文台の前身に当たる東京天文台の台長だった広瀬秀雄氏にちなんだ「広瀬」（同 1612）、姫路科学館初代館長の「桑原（昭二）」（同 7251）や私の名前である「安田岳志」（同 23448）などがあります。また「たこやき」（同 6562）や「しじみ」（同 29431）といった食べ物の名前がついた小惑星もあります。

現在は、観測・移動の確認・軌道の決定まで自動で行うロボット望遠鏡が世界各地にあり、24 時間休みなく新しい天体を探しています。残念ながら日本人だけでなく人間が発見する小惑星や彗星はとても少なくなっていて、観測装置などの名前が多くなっています。

### ■恒星の固有名は？

星座を作る恒星の名前は、長い歴史があるので簡単に名前をつけたり変えたりはできませんが、太陽系外惑星（太陽以外の恒星をめぐる惑星）の一部は、世界中から公募してつけられました。2019 年に IAU 創立 100 周年を記念したキャンペーンでは、春の星座かんむり座に国立天文台で 2010 年に発見した太陽系外惑星に、沖縄・琉球語から「ちゅら」、「ちゅら」が巡る恒星にアイヌ語から「カムイ」という名前が提案され命名されています。

### ■名前を買うことはできるの？

天体の名前を買うことはできません。時々「好きな名前を星につけませんか？」という広告を見ることがありますが、それは会社や天文台と買った人の間だけで使える名前で、IAU が公認した名前ではありません。小惑星の命名権の売買も禁止されています。

また「地球以外の天体の土地」というものが売られていることもあります。1967 年に国連で発効され日本も批准している通称「宇宙条約」では、いずれの国家も天体や宇宙空間の領有権を主張することはできないとされていますが、条約にはあいまいな部分も多く、世界中で認められる形にはなっていません。

IAU のホームページには「Buying Stars and Star Names」というページがあります。そこには「人生で一番良い物の多くと同じように、夜空の美しさは売り物ではありません。すべての人が無料で楽しむことができます。また、夜空はみんなのもので。」（著者訳）とあります。たとえ誰かの名前がついても、夜空や星たちは人類共通の財産なのです。